

いちのみやの芸術文化



三岸節子と小林和作(尾道にて)1957年頃
写真提供：三岸太郎氏 © MIGISHI

■ 特集「三岸節子と小林和作 知られざる交流」

■ [エッセイ] 小さな石像と狂俳

狂俳部門 一宮狂俳壇連盟 山本 翠仙

■ 役員紹介・加入団体一覧

■ これからの催し

2020.6

第52号

一宮市芸術文化協会

「一宮市」には、一宮市博物館・一宮市三岸節子記念美術館・一宮市尾西歴史民俗資料館など先人の残した文化を紹介する施設があります。私たちの「身近な文化」を学んでみませんか？

三岸節子と小林和作 知られざる交流

三岸節子と広島県尾道市の洋画家・小林和作。こぼしわく

これまであまり知られていませんでしたが、二人には戦前から戦後にかけて深い交流があったことがわかってきました。

小林和作 略歴

一八八八（明治二十一年）年、山口県吉敷郡秋穂村（現山口市）の裕福な地主の家庭に生まれた小林和作。十五歳で京都の美術工芸学校に進み、京都で日本画に取り組みます。

一九二一（大正十）年、三十二歳のときに父が急逝し莫大な遺産を相続すると、日本画家としての前途に疑問を抱いていた和作は翌年、洋画への転向を決意し上京。梅原龍三



▲小林和作《通り雨》1935年、愛知県美術館蔵

※高橋玄洋「花をみるかなー評伝小林和作ー」（1979年、三笠書房）によれば、節子は本作品に深い感銘を受けたという。

郎、中川一政、林武の指導を受けました。

ところが一九三三（昭和七）年頃、財産管理をしていた弟が運用に失敗し、小林家は一夜にして破産します。一九三四（昭和九）年、四十五歳となった和作は「生活態度の激変で、皆に顔を合わすのが、だんだん辛くなっていった」（注1）ため、所属していた春陽会から独立美術協会に移るとともに、東京から旧知の尾道へと転居しました。以後、自らを土着画家、民衆画家と名乗り、尾道を拠点に全国各地の風景画を制作。一九七四（昭和四十九）年に八十六歳で亡くなるまで、ここに住み続けました。

節子と和作の交流

昨年（二〇一九年）からの調査により、戦前から戦後にかけて節子がたびたび尾道の和作のもとを訪れていたことが判明しました。和作は一九三七（昭和十二）年に前妻と死別し、五年後に再婚して

いますが、後妻が節子について、次のように語るやりとりが残されています。

「女の私からみても素適な方でした。尾道にも何度か訪ねて下さって。話していらつしやると段々顔が輝いてくるの。話はずんで、主人とは心が通じ合っていたのね。」

——三岸さんと結婚なさればよかったのに。（笑）
「ええ、でもね一生尻にしかれると思ったんじゃないですか。おもしろいの、三岸さんとスケッチや、散歩に出る時は必ず犬を連れて行くの。私への申し訳ね。」（注2）

また、和作の名が戦後再び中央画壇に広められるきっかけとなった、一九五〇（昭和二十五）年の東京での個展について、仕掛人の美術評論家・田近憲三がその経緯を次のように回想しています。

わたしが小林さんの作品を知ったのは、終戦の翌年だったと思いますが、（中略）見てみるとだんだん心に浸みついてくるような静かな美しさを持っている作品があるのでびっくりしたのです。三岸節子さんに「これ、どういう方ですか」と聞きましたら、これは大変にりっぱな人だけれども、どういうわけか尾道にいて、東京におられないので人がそれほど知らないんだという。何とかして、この方を世の中に紹介しろといった、三岸さんがけしかけたんですね。（注3）

これらの記述から、節子が少なくとも和作が再婚する一九四二（昭和十七）年以前から和作のもとを訪ね、その作品を高く評価していたことが窺えます。

交流の証



▲三岸節子《尾道風景》
© MIGISHI



▲三岸節子《小林和作肖像（尾道にて）》
© MIGISHI
※9/1（火）～12/20（日）公開予定

今回の調査により、二人の交流を裏づける二点の節子作品と巡り合うことができました。一点目は尾道市街や瀬戸内海を一望できる景勝地・千光

寺山からの景色を描いた《尾道風景》。そして二点目は《小林和作肖像（尾道にて）》です。肖像は一九八〇（昭和五十五）年に発行された『小林和作の世界』で表紙を飾って以来、じつに四十年ぶりに和作の遺族宅で発見されました。いずれも一九五〇年半ば頃の作と推定されます。

節子はヨーロッパの風景は多く描いていますが、国内の風景画は数えるほどしかありません。またモデルに気を遣うのを嫌い、人物を描くこともほとんどありませんでした。貴重な国内風景画と肖像画を尾道で残したことに、節子と和作の交流の深さが垣間見えます。なお、この肖像画は、今回の調査をきっかけに和作の遺族から当館にご寄贈いただきました。

なぜ交流が生まれたのか

一八八八（明治二十一年）年生まれのと作と、一九〇五（明治三十八）年生まれの節子。十七歳も歳の離れた二人ですが、ともに一九二〇年代前半に上京し、節子の夫・好太郎とともに同じ洋画団体に属していましたので、東京でなんらかの接点があったことは推察できます。では孤高のイメージの強い節子が、なぜ遠く離れた尾道の和作とこれほどまでに交流を深めたのでしょうか。二人の生涯をたどると、いくつかの共通点が見つかりまし

た。ともに裕福な家庭に生まれながら没落の辛苦

▲独立美術協会会員 東京府美術館にて（1934年）
（写真提供…福沢一郎記念館）



を味わい、また節子は股関節脱臼、和作は重度の吃音症と、生来のハンディキャップを背負っています。そして和作が尾道へ都落ちした一九三四（昭和九）年に節子は好太郎と死別し、その三年後に和作は前妻と死別しています。生まれつきの境遇、そして人生の激動の時期を同じくし、それを持ち越えようとする互いの姿に、深い共感と尊敬を抱いたのかもしれない。

（一宮市三岸節子記念美術館 学芸員 長岡昌夫）

注1 小林和作『東京の家』『秋の旅』一九七五年、求龍堂、九十五頁

注2 『小林和作の世界』一九八〇年、山口県、柳井市、萩市、二十六頁

注3 「特集／追悼・小林和作 特別座談会 ああ!! 惜しみてもあまりある人」『日本美術』第十七巻第一二四号、一九七四年十二月、日本美術社、二十四頁

小さな石像と狂俳

狂俳部門

一宮狂俳壇連盟 山本 翠仙

浅井町の長誓寺。その入口に風雪に耐え、ひっそりと佇む一体の石像があります。素通りしてしまいがちな小さな力士の像です。

長誓寺史には、俗名増田（中山）恒三郎、三河奥平藩士として生まれ、廃藩後東京大相撲の呼び出しを務めた面山恒吉が、浅井一帯の狂俳普及に大きな功績を残したことが記載されています。

明治二十一年、面山は脊髄を患い、寺の筆頭檀家であった医師の



長誓寺の入口にある力士慰霊碑と力士像



長誓寺に建てられた東溪の辞世の句碑

うら枯れや我は帰らぬ旅の人

東溪

そんな狂俳の歴史をこの小さな石像は今も静かに物語っているのでしょうか。

狂俳は、江戸時代初期、伊勢国の俳人三浦櫛良によって考案され、美濃の俳人桑原東坡に受け継がれ改良されました。以後、前句と呼ばれていましたが、狂俳と改名され、美濃を一大狂俳王国に育て上げました。櫛良はこうした限られた地だけでなく、尾張、三河を行脚し狂俳の普及に努め、広く東海地域に庶民文学として浸透していったと伝えられています。

時を経て、当地方では幕末から明治にかけ名古屋を中心に結社が多数でき、丹羽に緑屋若菜、一宮に文正堂史郎、浅野に松寿軒里遊、浅井に亀斎森林平など教養高い狂俳人を輩出しました。

現在、一宮狂俳壇連盟では、折句、平句を兼題にそって二句ずつ、計十句作ります。折句は冠に物名などを置き、季重ねにならないよう五七五を表現します。平句は兼題に対し五七、あるいは七五の十二文字で作句します。「題に遠く、又離れずを主とすべし」の精神で、説明句にならないよう、題が連想されるよう心掛けることが大切と、

代々受け継がれてきました。

(例)

折句「コサメ」

古民家に座する女雛の眼の澄みて

平句「春雨」

浜の小舟に霽かかる

私たちは、毎月第二土曜日の午後一時より葉栗公民館にて月例会を楽しんでいます。ぜひ覗いてみてください。新しい趣味がもう一つ増えることを期待しています。



七夕祭狂俳大会

【参考文献】

『浅井町史』 脇田熊三郎 著
『長誓寺史』 堂宮賢瑞 著

令和2年度

一宮市芸術文化協会役員

※6～9ページに加入団体一覧表を記載します。

役職名	氏名	備考(部門/団体名)
名誉会長	中野正康	一宮市長
顧問	加藤昌義	茶道部門/同派会
会長	小島祥子	声楽・合唱部門/一宮音楽家協会
副会長	不破 皓	吹奏楽・管弦楽部門/尾西ウィンドオーケストラ
会計	不破 務	洋画部門/一宮美術作家協会/洋画部
監事	夫馬 勲	写真部門/一宮写真協会
	鵜飼輝子	吟剣詩舞部門/柳翠剣詩舞道会

※左表は各部門選出の理事一覧表です。

(敬称略)

文学部					部
短歌部門	俳句部門	川柳部門	狂俳部門	詩部門	部門
川合順夫	光崎賢治	川越洪太郎	山本範子	青木小代子	部長
真清短歌会	本町俳句会	一宮川柳社	一宮狂俳壇連盟	一宮現代詩協会	氏名
					団体名

美術部														部
日本画部門	洋画部門	デザイン・工芸・彫塑部門	書部門	写真部門	邦楽部門	謡曲部門	吟剣詩舞部門	声楽・合唱部門	器楽部門	吹奏楽・管弦楽部門	舞踊部門	芸能部門	茶道部門	華道部門
	○							○					○	
高橋弘子	大島麻琴	鵜飼辰郎	川浦碧濤	武鹿千代	水谷富士雄	森恒夫	高間加代子	久野以早夫	不破清子	浅井英仁	花柳こま希久	木全修	木野文工	脇田まつ子
一宮美術作家協会 /日本画部	一宮美術作家協会 /洋画部	一宮美術作家協会 /デザイン・工芸部・彫塑部	公益社団法人中部日本書道会 一宮支部	一宮写真協会	一宮三曲協会	竹石・紅韻会	一宮吟剣詩舞協会	一宮音楽家協会	琴伝流大正琴稀会	一宮市民吹奏楽団	一宮舞踊協会	一宮民俗芸能連盟	尾西表千家木野(文)会	一宮華道連盟

(敬称略)

加 入 団 体 一 覧

(令和2年5月現在)

部	部 門	団 体 名	主 な 活 動 日 時 ・ 場 所
			活 動 内 容
文 学 部	短 歌 部 門	真 清 短 歌 会	毎月第2日曜日：午後1時～ 一宮スポーツ文化センター
			毎月の短歌教室と年3回の短歌大会、5月の吟行会で会員相互の親睦と生きがいを深めています。
	俳 句 部 門	一 宮 市 民 俳 句 教 室	毎月第4日曜日：午後1時～ 一宮スポーツ文化センター
			初心者も交え俳句会を開き、年に一度秋の吟行会に参加しています。
		北 方 俳 句 会	毎月第1水曜日：午後1時～ 北方公民館
			自然に親しみ、心豊かに生きている喜びを詠っています。
		本 町 俳 句 会	毎週金曜日：午後1時～ 大志公民館
			四季の移ろいに自分の思いも入れ句に詠むことは心を豊かにします。
		き き よ う の 会	毎月第1・3水曜日：午後1時～ 大志公民館
			四季の自然や生活の中で気付いた事を五七五にまとめて句会を致しております。お気軽にどうぞ。
		千 秋 俳 句 ク ラ ブ	毎月第1木曜日：午後1時～ 千秋公民館
			当季雑詠6句を持ち寄り講師に指導いただき、11月には千秋文化展に出展し頑張っています。
		神 山 女 性 句 会	毎月第2土曜日：午後1時～ 神山公民館
			神山句会では本年で21年の教室となりました。昨年9月に新公民館に移りました。継続は力なりです。
		尾 西 牡 丹 句 会	毎月第3土曜日：午後1時～ 尾西生涯学習センター
			毎月の句会では全員が披露し交流を深めています。毎年バスで吟行会と尾西俳句大会を実施しています。
		尾 西 み な み 俳 句 会	毎月第1金曜日：午後1時～ 尾西南部生涯学習センター
			当日は俳句会をします。会の終わりに久保武氏の講評があり、折々の吟行会に参加します。
		仏 手 柑 俳 句 会	毎月第2日曜日：午後2時30分～ 応蓮寺
			大徳公民館で活動を始めました。第4日曜日から午後2時から3時まで。ご参加お待ちしております。
		尾 西 新 樹 会	毎月第1月曜日：午後1時～ 尾西生涯学習センター
			俳句を通じて人との触れ合いを大切にして作句し、吟行会や俳句大会へも積極的に参加しています。
美 術 部	川 柳 部 門	一 宮 川 柳 社	毎月第4日曜日：午後1時～ 一宮スポーツ文化センター
			句会と川柳教室ならびに柳誌の発行により、文芸としての川柳を楽しみ、普及をはかっています。
	狂 俳 部 門	一 宮 狂 俳 壇 連 盟	毎月第2土曜日：午後1時～ 葉栗公民館
			一宮市に残る庶民文芸を伝承し、地域文化として普及するよう、言葉遊びを楽しんでいます。
	詩 部 門	一 宮 現 代 詩 協 会	事務局へお問合せください。
			詩が好きな仲間が集まりました。詩心がある方はもちろん、始めてみたい方、どなたでも大歓迎です。
		一 宮 漢 詩 講 聲 會	毎月第1火曜日・第4土曜日：午前10時～ 中央図書館
			自作の漢詩を各自持ち寄り、互いに読み合っ、より良い作品へ仕上げる添削等を検討します。
	日 本 画 部 門	一宮美術作家協会／日本画部	事務局へお問合せください。
			市を代表する各部門の作家らの独創的な作品展を企画し、地域の芸術文化の発展に寄与していきます。
		桃 墨 会	毎月第1・3火曜日：午前10時30分～ 一宮スポーツ文化センター、第1・3水曜日：午後2時～ 尾西生涯学習センター
			趣味とは云えども芸術としての水墨画を日ざし、年2回のスケッチ旅行と年1回の桃墨会展を開催しています。
		尾 西 作 家 協 会	事務局へお問合せください。
			絵画や工芸作品の発表を通して美術文化の発展に協力します。チャリティー展も開催します。
	洋 画 部 門	一宮美術作家協会／洋画部	事務局へお問合せください。
			市を代表する各部門の作家らの独創的な作品展を企画し、地域の芸術文化の発展に寄与していきます。
		尾 西 絵 画 ク ラ ブ	毎月第1・3土曜日：午後1時～ 尾西生涯学習センター
			絵画をつうじて美術文化の発展と人との出会いを大切に、中央の公募展をめざして精進します。
		水 絵 の 会	毎月第1・3金曜日：午前10時～ 尾西南部生涯学習センター
			生涯学習として水彩画を学び、正確に描くことより気持ちを表現し、個性ある絵で感動を伝えたいです。
		グ ル ー プ 絵 ぞ こ ろ 三 美 会	毎月第1・2・3木曜日：午後1時～ 小信中島公民館
			油絵を描くことで、美術に対する関心を深め、会員相互の親睦をはかります。
		楽 し く 描 こ う 会	毎月第1土曜日・第3火曜日：午前9時30分～ 尾西生涯学習センター
			本会も歩み始めて18年目。熱心な講師の指導、個性溢れる仲間の作品から刺激を受け合い前向きに頑張っています。
		尾 彩	毎月第2・4月曜日：午前9時30分～ 尾西生涯学習センター
			水彩画に興味あるも始める機会のない方、ぜひ心躍る水彩画の世界に足を踏み入れてみて下さい。

部	部 門	団 体 名	主 な 活 動 日 時 ・ 場 所
			活 動 内 容
美術部	洋 画 部 門	ポ ビ ー の 会	毎週水曜日：午前 9 時30分～ 午後 1 時30分～ 講師宅 絵を描く事が好きな人が集まり、個々でテーマを決め作品を作り公募展にも多数出品しています。
		尾 西 ガ リ バ ン パ ンの 会	毎月第 2 ・ 4 金曜日：午前10時～ 尾西南部生涯学習センター 一枚の画用紙に何気ない風景を絵として表現できるよう学習しています。
		パ レ ッ ト 会	毎月第 2 ・ 4 木曜日：午前10時～ 尾西南部生涯学習センター 絵という共通の趣味を深め、互いの親睦を深め、年 2 回の展覧会を開き、地域と交流を深めます。
		木 曾 川 絵 画 同 好 会	毎月第 2 ・ 4 日曜日：午後 2 時～ シルバー人材センター木曾川支部 絵画一般を会員で楽しく描いています。
		ブル シ ャ ン ブ ル ー	毎月第 1 ・ 3 木曜日：午後 1 時～ 尾西南部生涯学習センター 絵画を楽しみ、人と人との交流を大切に、年間の成果を発表する作品展を目標に、活動しています。
		イ エ ロ ー オ ー カ ー	毎月第 1 ・ 3 土曜日：午前 9 時30分～ 尾西南部生涯学習センター 私達は絵画研習を目的に年 2 回のスケッチ旅行とグループ展を 2 回行っています。
		山 ぶ ど う の 会	毎月第 2 ・ 4 木曜日：午前 9 時30分～ 一宮スポーツ文化センター 趣味の一環で、水彩画・油絵など楽しく描き、年 1 回展覧会を開催しています。ご加入お待ちしております。
		土 筆 の 会	毎月第 1 ・ 3 火曜日：午前 9 時30分～ 一宮スポーツ文化センター 愛好者により、水彩画を学んで、地域の人との交流をして、成果を展示会にて発表します。
		あ ざ み の 会	毎月第 1 ・ 3 水曜日：午前 9 時～ 一宮スポーツ文化センター 仲間と共にワクワクする楽しい時を重ねて、絵筆を持ち脳トレに励み、笑顔あふれる日々を過ごします。
		花 畑	毎月第 2 水曜日：午前 9 時30分～ 北方公民館 クラブ員の新睦を深めながら、水彩画を学んでいます。作品展に出品する為に頑張っております。
		ゆ ず の 会	毎月第 1 ・ 3 金曜日：午前 9 時30分～ 一宮スポーツ文化センター 絵画をつうじて美術文化の発展と人との出会いを大切にし、作品展をめざして精進します。
		び く ー る ア ー ト サ ー ク ル	毎月第 2 ・ 4 金曜日：午後 1 時～ 一宮スポーツ文化センター 初心者からベテランの方まで、楽しく水彩画を学んでいます。スケッチ旅行にも皆で出かけます。
		グ ル ー プ 創	毎月第 2 ・ 3 ・ 4 火曜日：午後 6 時30分～ 一宮スポーツ文化センター 大島先生の指導のもと、各自自由課題で一宮市内外の展示会等に出展し油彩画を楽しんでいます。
		ア ク ア マ リ ン	毎月第 1 ・ 3 火曜日：午後 1 時～ 尾西生涯学習センター 水彩画を楽しく描き、一宮美術文化と人にふれあい生きがいのある活動をします。
	デ ザ イ ン ・ 工 芸 彫 塑 部 門	一宮美術作家協会/デザイン・工芸部・彫塑部	事務局へお問合せください。 市を代表する各部門の作家らの独創的な作品展を企画し、地域の芸術文化の発展に寄与していきます。
		陶 順 会	毎週火・土曜日：午前 9 時～ 朝日西つどいの里陶芸室棟 陶芸を通じて文化の振興に寄与し技術の向上に努めると共に、会員相互の新睦を図っています。
		尾 張 も め ん 伝 承 会	毎月第 4 日曜日：午後 2 時～ 尾張一宮駅前ビル（ <i>いービル</i> ） 尾州織物の原点となる綿から糸を紡ぎ染め織するという手仕事を伝承し、作品を作り発表しています。
		尾 西 面 打 会	毎月第 1 ・ 3 土曜日：午前 8 時30分～ 旧湊屋文右衛門邸 古面の能・狂言面等を手本に、角材から型紙を使い彫り、胡粉を塗り彩色し完成させています。
		一 面 会	毎月第 2 ・ 4 土曜日：午前 9 時～ アイブラザー宮 工芸「面打ち」教室に集う会員相互の親睦を深め、技術の向上を図ることを目的とします。
	書 部 門	公益社団法人中部日本書道会一宮支部	事務局へお問合せください。 『書』を通じて『地域文化の発展向上』と『心の豊かさ』をめざすと共に、青少年の育成にも尽力してまいります。
		麗 筆 会	事務局へお問合せください。 書を通して文化の発展向上、豊かな心と美意識を具備する青少年の育成をめざし研鑽しています。
	写 真 部 門	一 宮 写 真 協 会	事務局へお問合せください。 写真を通して会員相互の親睦を深め、写真技術の向上と豊かな人生の糧となるように努めています。
音楽部	邦 楽 部 門	一 宮 三 曲 協 会	事務局へお問合せください。 三曲協会は絃方10社中尺八 6 社中で構成され、合同で定期演奏会を毎年11月23日に開催しています。
		三 山 会	毎週土曜日：午後 2 時～ 講師宅 歴史ある伝統楽器である尺八を吹いて楽しんでいる仲間の会です。
		里 音 会	月 2 回 土曜日：午後 講師宅 箏・三絃・十七絃を練習し、演奏会が近くなると尺八とも合奏しながら楽しく励んでいます。

部	部 門	団 体 名	主 な 活 動 日 時 ・ 場 所
			活 動 内 容
音 楽 部	邦 楽 部 門	す み れ 箏 の 会	月 4 回 講師宅 箏のおけいこを通じて、音楽の知識を学び感性を養います。年に数回演奏会に出演。生徒募集中です。
		美 友 会	(随時) 講師宅 邦楽を愛する仲間と活動する会です。楽しく箏曲を演奏しております。
		藤 乃 会	(随時) 講師宅 古曲から新曲、あらゆるジャンルの曲を箏で合奏しています。新しい方との出会いをお待ちしています。
		津 軽 三 味 線 恋 糸	毎週土曜日：午前10時～ 講師宅 津軽三味線を通して、日本文化の普及と、生きがいを目的とし、練習に励んでいます。
		一 宮 三 味 線 川 崎 会	毎週金曜日：午前9時15分～ 渡辺節子宅 民謡三味線を弾き、日本音楽文化を楽しもう。
	謡 曲 部 門	相 生 ・ 中 日 文 化 会	中日文化会 毎月第2・4木曜日：午後6時～ 名鉄百貨店一宮店 相生会 毎月第2・4金曜日：午前9時30分～ 神山公民館 日本の伝統芸能の謡曲と言う共通の趣味を持つ団体で、年2回謡曲大会を開催し、親睦を深めています。
		竹 石 ・ 紅 韻 会	竹石会 不定期 真清田神社 紅韻会 不定期 渡辺節子宅 日本の伝統芸能の謡曲と言う共通の趣味を持つ団体で、年2回謡曲大会を開催し、親睦を深めています。
		誠 謡 ・ 清 宵 会	誠謡会 毎月第1・3月曜日：午前9時～ 浅井河端公民館 清宵会 毎月第2・4金曜日：午後1時30分～ ききょう会館 日本の伝統芸能の謡曲と言う共通の趣味を持つ団体で、年2回謡曲大会を開催し、親睦を深めています。
		蘇 水 ・ 萩 謡 会	蘇水会 毎月第1・2・3火曜日：午後1時～ シルバー人材センター木曽川支部 萩謡会 不定期 日本の伝統芸能の謡曲と言う共通の趣味を持つ団体で、年2回謡曲大会を開催し、親睦を深めています。
		丹 謡 ・ 緑 風 会	丹謡会 毎週月曜日：午後 丹陽公民館 緑風会 毎月第2・4金曜日：午後1時30分～ ききょう会館 日本の伝統芸能の謡曲と言う共通の趣味を持つ団体で、年2回謡曲大会を開催し、親睦を深めています。
	吟 剣 詩 舞 部 門	一 宮 吟 剣 詩 舞 協 会	事務局へお問合せください。 地域文化高揚の為、伝統芸能の詩吟、剣舞、詩舞等の普及と会員相互の親睦、出会いを深める会です。
		神 道 一 刀 流 剣 詩 舞 会	毎月第1・3木曜日：午後7時～ 小信中島つといの里、第2・4金曜日：午後1時～ 小信中島公民館 勇壮な剣舞、艶やかな詩舞の伝統芸能により歴史を学び、舞台や慰問等を楽しんでいます。
		柳 翠 剣 詩 舞 道 会	毎月第1・3金曜日：午後1時～ 小信中島公民館、第2・4金曜日：午後1時～ 尾西生涯学習センター他 吟剣詩舞道は日本古来の伝統芸能です。「礼と節」をその心とし舞う事に喜びを感じ精進しています。
		山 螢 会	毎週月・水・金曜日 山螢会教室、尾西生涯学習センター 他 吟詠を通じ、優れた詩人の心情・思想にふれ共感し仲間との絆を深めています。又発声により健康の保持に努めています。
	声 楽 ・ 合 唱 部 門	一 宮 音 楽 家 協 会	事務局へお問合せください。 クラシック音楽の演奏。会員は日頃は個々に自己研鑽に努め、その成果を一般に公演しています。
		一 宮 合 唱 協 会	事務局へお問合せください。 コーラスを通じ歌いたい心のうたを皆様にお届けできたらと取り組んで練習を重ねています。
		一 宮 第 九 を う た う 会	毎週火曜日：午後6時45分～ カトリック一宮教会 「第九」をはじめ各種の演奏会と練習を通じて地域文化の向上に貢献することを目的に音楽活動中です。
		佳 富 士 会	毎月第2・4土曜日：午後1時～ 尾西生涯学習センター 民謡は「心の故郷」といわれます。さあ民謡の旅にご一緒にしましょう。さあ出発しますよー。
	器 楽 部 門	琴 伝 流 大 正 琴 琴 稀 会	月 4 回 金曜日：午後1時～、土曜日：午後1時～ 尾西ふれあい広場 懐かしい童謡や流行歌など大正琴の音色を楽しみながら、芸能祭出演に向けて練習に励んでいます。
		安 美 & コ ン プ リ オ	事務局へお問合せください。 12月にはクリスマスコンサートでいろいろなジャンルの曲をいろいろな楽器で演奏します。
		特定非営利活動法人旭雅楽会	毎月1・15・28日：午後6時～、第2・4日曜日：午後6時～ 尾張猿田彦神社 一宮市をはじめ、東海三県で世界最古の音楽「雅楽」の演奏活動をしております。
	吹 奏 楽 ・ 管 弦 楽 部 門	一 宮 市 民 吹 奏 楽 団	毎週土曜日：午後5時～ 一宮スポーツ文化センター 定例練習を重ね、自主演奏会を開催し、市民文化発展に貢献できるよう、活動しています。
		尾西ウィンドオーケストラ	毎週日曜日：午後5時～ 尾西生涯学習センター 音楽を楽しみ、人との繋がりを深め、希望と夢のあふれるまちづくりに貢献し、人生に潤いを！

部	部 門	団 体 名	主 な 活 動 日 時 ・ 場 所
			活 動 内 容
音 楽 部	吹奏楽・管弦楽部	一 宮 シ テ ィ 合 奏 団	毎月第2土曜日：午後6時～ 第4日曜日：午後1時30分～ 木曽川文化会館または一宮スポーツ文化センター リハーサルにより合奏能力を高め、年1回10月に一宮市尾西市民会館にて定期演奏会を行っています。
		きそがわポップスバンド	毎月第1土曜日、第2～5日曜日：午後5時30分～ 木曽川公民館または木曽川体育館 吹奏楽を通じて地域文化の発展や人との出会いを大切に、イベントや演奏会に参加しています。
		濃 尾 プ ラ ス ソ サ ェ テ ィ	月3回 日曜日：午後1時～ 木曽川公民館 通常練習と年4回程の演奏会を通じて市民文化の発展に貢献できるよう活動しています。
芸 能 部	舞 踊 部 門	一 宮 舞 踊 協 会	越智バレエ団 秋田産業ビル（木曜日）、一宮中日文化センター（火曜日・日曜日） 佐々バレエ団 一宮中日文化センター（木曜日） 糸尾バレエ団 下沼町（日～土曜日） 日舞喜美会 北園通（水・木・金・土・日曜日） 日舞吉利枝会 スポーツ文化センター（金曜日） 日舞こま希久会 中町（日・月・木・金曜日） 現在6団体、日舞とバレエ協会結成68年目で、各会それぞれに楽しく稽古に励んでいます。
		新 舞 踊 あ す か 会	毎週水曜日：午後6時～ 起つどの里 歌謡曲や古典舞踊、民謡の曲にあわせ日々稽古に励み、秋の尾西芸能祭に向けて頑張っています。
		坂 東 流 百 喜 久 会	毎月第1・2木曜日：午前9時～ 尾西文化広場、毎月火曜日：午後1時～ 講師宅又は尾西生涯学習センター 令和3年に70周年を迎えます。日舞の歴史等も学びつつ、演目の理解度も高め、芸能祭を目標に！
		坂 東 流 百 の 会	毎月第1・2（又は3）木曜日：午前9時～ 尾西文化広場または講師宅 H27年に10周年記念発表会。自分の踊りを仕上げる喜び、苦しみ仲間と共に。芸能祭を目指します。
		芳 美 会	毎週月曜日：午前9時30分～ 午後5時30分～ 向山公民館 会員皆で仲良く楽しく、日本舞踊に親しんでいます。
		芸 能 部 門	一 宮 民 俗 芸 能 連 盟
			事務局へお問合せください。 現在10団体加入しており、長い歴史に培われた郷土の民俗芸能を保護するため奮闘しています。
	茶 道 部 門	同 派 会	事務局へお問合せください。 7月に納涼茶会、10月に市民茶会、11月に妙興寺で茶会を行う等、各先生方と共に茶会の席を設けております。
		弥 生 会	事務局へお問合せください。 7月に納涼茶会、10月に市民茶会、11月に妙興寺で茶会を行う等、各先生方と共に茶会の席を設けております。
		茶 道 表 千 家	事務局へお問合せください。 7月に納涼茶会、10月に市民茶会、11月に妙興寺で茶会を行う等、各先生方と共に茶会の席を設けております。
		茶 道 裏 千 家	事務局へお問合せください。 7月に納涼茶会、10月に市民茶会、11月に妙興寺で茶会を行う等、各先生方と共に茶会の席を設けております。
		表 千 家 尾 西 玉 香 会	火曜日：午後2時～ 講師宅、金曜日：午後1時30分～ 尾西生涯学習センター 池坊尾西玉香会と一緒に花茶とお茶を楽しんでいます。
		尾西表千家・木野（文）会	月3回 土曜日：午後2時～（随時） 講師宅 おいしい花茶を優雅な所作で、おもてなし出来る事を目指し、御稽古を楽しんでいます。
		尾 西 緑 寿 会	月3回 土曜日：午後1時30分～ 講師宅 尾西小原流寛社中と一緒に花茶とお茶を楽しんでいます。
		裏 千 家 尾 西 杉 本 社 中	月3回 月・水・土曜日：午前9時～ 講師宅 伝統文化の茶道を通じ、心の持ち方、立居振舞いを勉強しつつ、日常生活に生かしましょう。
		松 風 会	事務局へお問合せください。 忙しい日々の中で、お菓子を頂き花茶を頂き、一時心を開放する事を、姿勢を正し、楽しんでいます。
		裏 千 家 白 河 社 中	（随時） 講師宅 茶道を基礎から上級までお稽古します。英語での茶道レッスンも行います。
	華 道 部 門	一 宮 華 道 連 盟	事務局へお問合せください。 華道展を開催する事によって、文化の発展の向上をより多くの方々に伝えて携わっていただきたいです。
		池 坊 尾 西 玉 香 会	月3回 火曜日：午後 講師宅 表千家尾西玉香会と一緒に花茶とお茶を楽しんでいます。
		尾 西 小 原 流 寛 社 中	月3回 土曜日：午後1時30分～ 講師宅 尾西緑寿会と一緒に花茶とお茶を楽しんでいます。
		尾 西 池 坊 木 野 （ 文 ） 会	月3回 土曜日：午後2時～（随時） 講師宅 池坊の生け花を、自分自身が楽しみ、家族や世間様にも喜んで頂ける作品を目指し稽古しています。



「バラード」

井上 雅夫



※新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況により、掲載している催しや教室などは中止・延期等になる場合があります。開催状況は、問合せ先へお尋ねください。

一宮市 芸術文化協会 加入団体の 催し

『瀟聲會漢詩講読会』

【問合せ先 一宮漢詩瀟聲會】

☎(78)7953

日時▼6月27日(土)・7月25日(土)

9月26日(土)・10月24日(土)

11月28日(土)・12月26日(土)

午前10時～

会場▼中央図書館

内容▼漢詩文の基本的な読み方をはじめ、作者の時代背景にも触れながら初めての方にも分かりやすく「唐詩三百首」を解説します。(初心者歓迎)

講師▼三島徹氏(東洋文化振興会会長)

参加料▼月2,000円

申込み▼当日直接会場

『市民川柳教室』

【問合せ先 一宮川柳社】

☎(44)7598

日時▼6月28日(日)・7月26日(日)

8月23日(日)・9月27日(日)

10月25日(日)・11月29日(日)

12月20日(日)

午後1時～

会場▼一宮スポーツ文化センター

内容▼自由吟および課題吟を一宮川柳社委員が指導します。

(初心者歓迎)

参加料▼無料

申込み▼当日直接会場

『瀟聲會作詩教室』

【問合せ先 一宮漢詩瀟聲會】

☎(78)7953

日時▼7月7日(火)・9月1日(火)

10月6日(火)・11月3日(祝)

12月1日(火) 午前10時～

会場▼中央図書館

内容▼漢詩文の作り方の指導をはじめ、持ち寄った創作詩の添削の検討を会員間で行います。

(初心者歓迎)

参加料▼年3,000円

申込み▼当日直接会場

『狂俳月例会』

【問合せ先 一宮狂俳壇連盟】

☎(78)5002

日時▼7月11日(土)・8月8日(土)

9月12日(土)・10月10日(土)

11月14日(土)・12月12日(土)

午後1時～

会場▼葉栗公民館

内容▼各自10句持参、互選により優秀作を記録に残します。

(初心者歓迎)

参加料▼無料

『市民短歌教室』

【問合せ先 真清短歌会】

☎(51)3570

日時▼7月12日(日)・8月23日(日)

9月13日(日)・10月11日(日)

12月13日(日)

午後1時～

会場▼一宮スポーツ文化センター

内容▼真清短歌会委員により実作指導します。(初心者歓迎)

参加料▼無料

申込み▼当日直接会場

『一宮市尾西俳句教室』

【問合せ先 尾西俳句会】

☎(68) 2397

日時 ▼ 7月18日(土)・8月22日(土)

9月19日(土)・11月21日(土)

12月19日(土)

午後1時30分～

会場 ▼ 尾西生涯学習センター

内容 ▼ 当季雑詠4句、課題句1句を
尾西俳句教室委員が指導しま
す。

参加料 ▼ 無料

申込み ▼ 当日直接会場

『市民俳句教室』

【問合せ先 一宮市民俳句教室】

☎(73) 0282

日時 ▼ 7月26日(日)・8月23日(日)

9月27日(日)・10月25日(日)

11月29日(日)・12月20日(日)

午後1時～

会場 ▼ 一宮スポーツ文化センター

内容 ▼ 当季雑詠3句を一宮市民俳句
教室委員が指導します。

(初心者歓迎)

参加料 ▼ 無料

申込み ▼ 当日直接会場

今号掲載を予定していた
催しのうち、新型コロナウイルス
イルス感染症の影響によ
り、開催中止となった催し

『第38回ゆかた会』

花柳流こま希久会

一宮舞踊協会こま希久会

期日 ▼ 6月28日(日)

会場 ▼ 一宮スポーツ文化センター

内容 ▼ 幼児から大人までの日舞発表
会

『第48回学生書道展・ 第27回書道連盟選抜作品展』

一宮書道連盟

期日 ▼ 7月11日(土)・12日(日)

会場 ▼ 一宮スポーツ文化センター

内容 ▼ 上位入賞作品、役員と指導者
作品の展示

『納涼茶会』

一宮茶道連盟

期日 ▼ 7月18日(土)・19日(日)

会場 ▼ 一宮スポーツ文化センター

『100人展』

一宮写真協会

期日 ▼ 7月24日(金)・26日(日)

会場 ▼ 一宮スポーツ文化センター

内容 ▼ 100人の会員作品の展示

『いちのみや民俗芸能のつどい』

一宮民俗芸能連盟

期日 ▼ 8月23日(日)

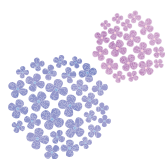
会場 ▼ 一宮市民会館

内容 ▼ 一宮民俗芸能連盟の加盟団体
による市内各地に伝わる民俗
芸能の上演

この「いちのみやの芸術文化」は、
今年度の編集委員7名により、編集
されています。

【編集委員】 ※順不同・敬称略

・浅井 英仁・木全 修
・小島 祥子・後藤 蘇月
・原 美津子・増田 和臣
・安江たつよ



『加入団体の催し』欄に情報を掲載しませんか？

このコーナーでは一宮市芸術文化協会加入団体の活動情報を募集します。
掲載を希望される団体は、発行月3・6・8・12月の前々月15日までに、下記の必要事項を任意の様式にて
記入の上、事務局まで提出してください。

必要事項

①行事名 ②団体名 ③問合せ先電話番号 ④日時 ⑤会場 ⑥対象 ⑦参加料
⑧申込方法 ⑨その他必要事項

提出先

〒491-8501 一宮市芸術文化協会事務局(住所不要)
または FAX 0586-73-9213

『いちのみや文芸2020』作品募集

市民の皆さまから文芸作品を募集し、お寄せいただいた作品を文芸集にします。
ぜひご応募ください！

1. 募集種目

- | | |
|--------|--------------------------|
| ①随想・随筆 | 一人1編（本文は400字詰原稿用紙3枚以内） |
| ②現代詩 | 一人1編（本文は400字詰原稿用紙3枚以内） |
| ③漢詩 | 絶句、一人2首以内 |
| ④短歌 | 一人8首以内（題を付けること） |
| ⑤俳句 | 一人10句以内（新仮名、旧仮名遣いを明記のこと） |
| ⑥川柳 | 一人10句以内 |
| ⑦狂俳 | 一人10句以内（俳号を付けること） |

2. 応募上の注意

- ①応募は一人3種目以内とします。
- ②用紙は、A4判の400字詰原稿用紙とし、種目ごとに別紙を用いてください。
パソコンなどを使用する場合は、A4判白無地の用紙を横長に用い、
20字×20行で印字してください。
- ③原稿は縦書きとし、文字は正確に読みやすく書いてください。
- ④原稿には、欄外に種目を記入してください。その他に氏名、号（必要に応じて）、
年齢、住所（番地まで正確に）、郵便番号、電話番号を記入してください。
なお、氏名および号には振り仮名をつけてください。
- ⑤原稿は文字のみとし、挿絵や写真等は掲載しません。
- ⑥応募原稿は返却しません。

3. 応募資格

市内在住・在勤または一宮市芸術文化協会加入団体に所属している方

4. 作品の採否

応募作品の採否については、編集委員が選者となり、編集委員会で決定します。

5. 応募方法

〒491-8501（住所不要）
一宮市芸術文化協会事務局『いちのみや文芸』係
（市教育委員会生涯学習課内）までお送りください。

令和2年7月1日（水）必着



6. 発刊予定

令和2年10月17日（土）発刊予定です。

【題 字】武 山 翠 屋
【編集・発行】一宮市芸術文化協会

【連絡先】一宮市芸術文化協会事務局（市教育委員会生涯学習課内）
〒491-8501 愛知県一宮市本町2丁目5番6号
TEL 0586-85-7075 / FAX 0586-73-9213